

大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略
期間延長に伴う新たな数値目標と重要業績評価指標 (KPI) の一覧

大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)は平成27年(2015年)度～令和元年(2019年)度を計画期間として策定しました。次期総合戦略は令和4年度を始期とする課題別計画として、令和3年度中に策定する予定です。そのため、総合戦略の計画期間を昨年度に引き続き1年間延長し令和3年(2021年)度までの計画とします。

総合戦略の計画期間延長に伴い、各種数値目標及び重要業績評価指標(KPI)の目標値は令和3年度末(2021年度末)時点における値として下表のとおり再設定します。

基本目標

様々な産業を支える世界トップレベルの技術力の集積や、人と人とのつながりにより、新たなチャレンジが次々と生まれる創造のまちを目指す

■数値目標

No.	目標項目 【この項目により何を測るか】	現状値 (計画策定時の値)	目標値 (令和3年度末時点)
1	製造品出荷額等(億円) 【新製品・新技術開発や地域産業のブランディングなどの取り組みが、実際の取引拡大につながっているか。】	4,110億円 (平成26年度)	5,000億円 以上
2	開業率(%) 【区内の産業集積の進展やマーケットとしての魅力が向上することにより、創業・起業が活発に行われるビジネスがしやすいまちになっているか。】	7.5% (平成26年度)	10%
3	大田区内従業者数(人) 【区内の各種産業の活性化が図られているか。】	359,410人 (平成26年度)	361,000人 以上

■重要業績評価指標(KPI)

No.	指標項目 【この項目により何を測るか】	現状値 (計画策定時の値)	目標値 (令和3年度末時点)
施策1 ものづくりにおける新たな価値の創出			
1	臨海部(平和島・昭和島・京浜島・東海・城南島・羽田空港)に立地する事業所数(社) 【大田区の特色である、陸・海・空をつなぐ好立地にある臨海部の産業の発展が図られているか。】	2,154社 (平成23年度)	2,300社以上
2	指定集積業種の企業立地件数または新規事業件数(件) 【大田区の強みであり、他の産業にも好影響を及ぼす産業集積が進んでいるか。】	124件 (平成26年度)	150件
3	指定集積業種の製品出荷額(億円) 【大田区の強みであり他の産業にも好影響を及ぼす産業集積が功を奏しているか。】	4,312億円 (平成24年度)	4,412億円

No.	指標項目 【この項目により何を測るか】	現状値 (計画策定時の値)	目標値 (令和3年度末時点)
4	新製品・新技術開発助成(実用化・製品化助成)を受けた企業のうち、展示会出展または取引につながった企業の割合(%) 【助成制度の成果として区内中小企業の技術力・製品開発力が向上し、製品の市場化につながっているか。】	82.1% (平成27年度)	100%
5	受発注相談会をきっかけとした取引成立金額と件数(千円・件) 【相談会の成果として区内中小企業が新分野や新市場を開拓し、取引拡大につながっているか。】	50,669千円 209件 (平成26年度)	73,500千円 268件
施策2 暮らしを支え豊かにする地域ビジネスの発信			
1	ビジネスプランコンテストにソーシャルビジネス・コミュニティビジネスとして提案されたプラン件数(件) 【地域の資源や人材を活用して地域の課題解決を支援する、大田区ならではの取り組みが進んでいるか。】	19件 (平成27年度)	28件
2	おおたオープンファクトリーの参加者数(人) 【大田区の強みであるものづくり産業を多くの人々が実際に体感し理解を深めることで、大田ブランドの発信につながっているか。】	3,500人 (平成27年度)	5,000人
施策3 ビジネスがしやすいまち大田区の形成			
1	大田区創業支援事業計画における事業を通じて創業した事業者数(件) 【区の取り組みが区内産業の維持・発展に結びついているか。】	年間28件 (平成26年度)	年間59件
2	大田区中小企業融資あっせん制度(開業資金)を通じた金融機関の融資件数(件) 【区の取り組みが中小企業の経営改善や設備向上などに活かされているか。】	47件 (平成26年度)	100件
3	イノベーション創造サロン利用者のうち区内で開業した者の数(件) 【多様な人々の出会いと交流により、これまでにないアイデアを実現できる環境づくりが進んでいるか。】	—	年間3件
4	大田の工匠による指導回数(回) 【区内産業の優れた技術が次世代へと継承され、ものづくり産業の人材育成が進んでいるか。】	3回 (平成27年度)	15回

基本目標2

羽田空港を擁する地の利を活かし、地方との連携・交流・共存共栄を図るとともに、国際都市としての発展を目指す

■数値目標

No.	目標項目 【この項目により何を測るか】	現状値 (計画策定時の値)	目標値 (令和3年度末時点)
1	区内宿泊施設の宿泊者数(万人) 【国際交流拠点としての機能が向上し、国内外からの多くの来訪者が行き交う、活力のあるまちになっているか。】	136万人 (平成26年度)	171万人

■重要業績評価指標(KPI)

No.	指標項目 【この項目により何を測るか】	現状値 (計画策定時の値)	目標値 (令和3年度末時点)
施策1 拠点機能を活かした国内外との交流促進			
1	羽田空港及び空港跡地が、地域経済の発展に貢献すると感じる区民の割合(%) 【大田区の地の利を活かした経済発展への取り組みが、区民の実感を伴って進んでいるか。】	52% (平成26年度)	70%
2	羽田空港跡地第1ゾーンの整備進捗率(%) 【国内外との交流を促進する新産業創造・発信拠点の整備が、どの程度進んでいるか。】	30% (平成26年度)	100%
3	国際交流団体の登録数(団体) 【地域住民が主体的に国際交流を進めているか。】	58団体 (平成27年度)	78団体
4	OTAふれあいフェスタに出展した地方友好都市・団体等の数(団体) 【友好都市などの地方が、陸・海・空の結節点である大田区の地域性に魅力を感じ、地域の発展・活性化に役立つ場所と考えているか。】	10団体 (平成27年度)	15団体
5	友好都市ふれあいひろばの参加者数(人) 【友好都市への区民の関心が高まり、観光情報や特産品などへの魅力を感じているか。】	4,000人 (平成27年度)	5,500人
6	区の保養施設を利用した区民の数(人) 【区民が地方の魅力を感じながら、観光や特産品購入などによる地方経済への好影響を与えられているか。】	17,450人 (平成26年度)	34,500人
施策2 国際交流拠点としての魅力を高める環境整備			
1	区の船着場における船舶の接岸数(回) 【大田区の地域特性の一つである臨海部の魅力に対する関心が高まり、新たな人の流れが生まれているか。】	110回 (平成26年度)	490回
2	主要駅(JR蒲田駅・大森駅、東急蒲田駅)における一日平均乗車数(人) 【区内の主要拠点の魅力が高まり、居住者や来訪者が増えることで、まちの活性化が進んでいるか。】	311,260人 (平成26年度)	332,000人
3	区内宿泊施設における外国人宿泊者数(万人) 【受入れ体制の整備やシティ・プロモーションが進み、外国人が訪れたい魅力あるまちになっているか。】	17万人 (平成26年度)	41.2万人

基本目標3

結婚・出産・子育て・教育などの希望を叶え、未来を担う若い世代の活力あふれるまちを目指す

■数値目標

No.	目標項目 【この項目により何を測るか】	現状値 (計画策定時の値)	目標値 (令和3年度末時点)
1	合計特殊出生率 【希望する数の子どもを産み育てやすいまちになっているか。】	1.19 (平成26年)	毎年1.2以上
2	若い世代(20~30代)の定住意向(%) 【結婚・出産・子育てをする世代が暮らしやすいまちになっているか。】	75.4% (平成26年度)	80%

■重要業績評価指標(KPI)

No.	指標項目 【この項目により何を測るか】	現状値 (計画策定時の値)	目標値 (令和3年度末時点)
施策1 安心して出産・子育てができる環境の整備			
1	子育て環境に対する満足度(%) 【子育てに関する幅広い施策が全ての子育て家庭にいき渡っているか。】	43% (平成25年度)	60%
2	保育サービスアドバイザーによる相談件数(件) 【きめ細やかな情報提供や、適切な相談・助言を受けられる環境が整い、子育て家庭の悩みを解決することにつながっているか。】	5,386件 (平成26年度)	10,000件
3	妊娠11週以内に妊娠届出をした割合(%) 【妊娠の早い時期から医療・保健機関とつながり適切なケアを受けることで、妊娠・出産期を安心して過ごせているか。】	92.5% (平成26年度)	100%
4	ファミリー・サポート・センター事業延べ利用者数(人) 【仕事と子育ての両立などの面で、子育て家庭を地域で支える取り組みが進んでいるか。】	11,849人 (平成26年度)	13,500人
5	地域子育て支援拠点事業利用者数(児童館・子ども家庭支援センター・保育園)(人) 【身近な地域で子育てに関する情報提供や相談・助言を受けたり、親子が寛ぎ交流できるなど、安心して子育てできる環境が整っているか。】	358,546人 (平成26年度)	650,000人
6	ボランティアなど地域や地域の人を支える活動に参加している高齢者の割合(%) 【経験豊富な高齢者が地域の支え手となり、子育て家庭などを支援する自主的な取り組みが進んでいるか。】	10.3% (平成24年度)	15%以上
施策2 子どもを健やかに育む子育て支援の充実			
1	保育所入所率(%) 【仕事と子育てが両立しやすい環境が整っているか。】	95.0% (平成26年度)	100%
2	病後児保育提供量(人) 【子どもが病気などの際にも、安心して保育を受けられる環境が整っているか。】	3,684人 (平成26年度)	9,800人

No.	指標項目 【この項目により何を測るか】	現状値 (計画策定時の値)	目標値 (令和3年度末時点)
3	学童保育入室率(%) 【仕事と子育てが両立しやすい環境が整っているか。】	94.9% (平成26年度)	100%
4	保育人材育成研修参加者数(人) 【保育園で質の高い保育を受けられるよう、保育士のスキルアップが図られているか。】	2,167人 (平成26年度)	3,960人
5	保育施設訪問支援・交流施設数(件) 【区立保育園による支援や保育園間の交流により、認証保育所や小規模保育所等の保育の質の向上が図られているか。】	484件 (平成26年度)	600件
施策3 未来を担う子どもたちを育む教育の提供			
1	大田区学習効果測定(中3数学・国語・英語)において期待正答率を超えた生徒の割合(%) 【基礎学力が、より多くの生徒に定着しているか。】	数学 61.2% 国語 71.0% 英語 68.0% (平成26年度)	数学 65.7%以上 国語 72.0%以上 英語 68.0%以上
2	自分にはよい所があると答えた生徒の割合(%) 【自ら考え行動できるようになるための基本的な力が身に付いているか。】	74.5% (平成26年度)	84.0%以上
3	体力合計点(小6男女)(点) 【意欲・気力を持ってたくましく生きるための基礎的な体力が身に付いているか。】	男子 60.57点 女子 60.56点 (平成26年度)	男子 60.62点 女子 61.68点
4	区立小・中学校における学校支援コーディネーターの活動日数(日) 【地域に根ざした学校支援コーディネーターの活動が、学校の学習活動の充実や、教育環境の整備に活用されているか。】	19,222日 (平成26年度)	25,000日
施策4 若年代・子育て世代のライフステージに応じた就労・復職支援			
1	「ヤングジョブクリエイション」に参加した企業・若年代の満足度(%) 【地域の中小企業への就職の機会が、適切に提供できたか。】	参加企業 100% 一般求職者 88% 学生 97% (平成27年度)	参加企業 100% 一般求職者 100% 学生 100%
2	「ヤングジョブクリエイション」を活用した、ものづくり、研究・開発分野に就職を希望する参加者の割合(%) 【区の産業を牽引するものづくり・研究開発分野の中小企業に対する正しい認識やイメージが若者に伝えられているか。】	一般求職者 56% 学生 47% (平成27年度)	一般求職者 75% 学生 60%
3	課題の解決に向け、一定の前進が見られた生活再建・就労サポートセンター相談者・被支援者(20代・30代)の割合(%) 【区の取り組みが、生活に困窮する若者への確実な支援につながっているか。】	64.9% (平成27年度)	70%
施策5 働き方の改革促進			
1	職場における男女の地位が平等であると答えた区民の割合(%) 【性別に関係なく、誰もが理解し合い、働きやすい環境が整っているか。】	男性 24.0% 女性 16.8% (平成26年度)	40%
2	ワーク・ライフ・バランスの認知度(%) 【充実した人生を送るための、仕事と生活の両立に対する認識・理解が深まっているか。】	49.9% (平成26年度)	64%